

# 2024 年度学生相談室の利用状況

学生相談室 相談員 橋本 ちはる 船越 かほる

2024 年度の学生相談室の利用状況を報告します。

さい。

## 1. 相談者数

2024 年度は昨年度に引き続き対面相談に加えて電話相談を実施しました。相談者数は 78 名で延べ相談件数は 719 件でした。内訳は、学生が 70 名、卒業生 6 名、教職員 0 名、保護者 2 名でした。

## 2. 相談内容

2024 年度の相談内容内訳を図 1 に示しました。2024 年度は、適応相談が 86%、ハラスメントが 6%、コンサルテーションが 3%、健康相談が 2%、進路相談が 2%、生活相談が 0%、修学相談が 0%、その他が 0%でした。2024 年度に、最も割合の多かった適応相談には性格・気分や感情などの心理的問題、対人関係、性・恋愛、人生観といった内容が含まれます。2024 年度は、「学校生活のこと」「人間関係のこと」「自分の性格のこと」といった対人関係の難しさや自分自身のことを考えたいといった相談が多くみられました。健康相談は身体疾患、精神的不健康や発達の特徴といった内容が含まれます。2024 年度は「体調不良」「気分の落ち込み」といった相談が多くみられました。進路相談は就職に関する職種選択や資格取得、進路のことや生活設計などの将来の方針といった内容が含まれます。2024 年度は「就職活動のこと」「進路のこと」といった相談が多く見られました。

学生相談室では、これらの相談以外にも、「学業に関すること」「アルバイトや私生活に関すること」など、どのような内容でも相談に応じています。また、保護者の方にはお子様に関する不安や心配事、教職員の方には学生に関する相談も受け付けています。お気軽にお越しくだ

## 3. 健康調査 (UPI) の実施

2024 年度も例年通り、入学時のオリエンテーション期間中に、新入生を対象に健康調査 (UPI) を実施しました。

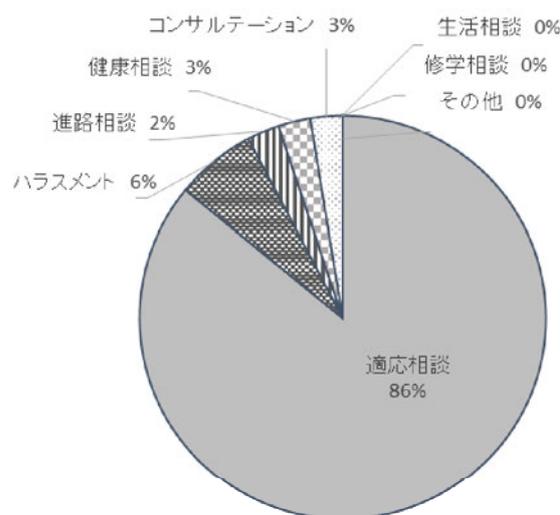


図 1 2024 年度相談内容の内訳

# 近畿学生相談研究会(KSCA)に参加して

KSCAには、近畿二府四県に拠点を置く大学、専修学校が多数加盟しており、高等教育課程の学生が抱える課題や支援について幅広く学ぶとともに、意見交換や情報収集を行なっています。2024年度に開催された研究会について報告をさせていただきます。

報告者 学生相談室 相談員 橋本 ちはる

2024年10月5日(土)近畿学生相談研究会第55回特別例会が流通科学大学にて開催されました。午前の部は『若者の生きづらさについて～SOSをキャッチするために～』というテーマで、流通科学大学の岩崎久志教授による講演を聴かせて頂きました。まず、若者のいきづらさ・若者をめぐる問題を理解するには社会状況を含め、環境要因も視野に入れた捉え方が必要になります。子どもは、親から教わることで、与えられるものや教育によって文化資本を身につけていき、その文化資本により、社会における親の地位が子どもへと継承されるという「文化的再生産論」という考え方があります。親の経済状況や地位は、社会情勢の影響も受けています。現代社会の影響を受けた若者のマインドの特徴として、「どうせ…」と考えて上を目指そうとすることができない“自己肯定感の低下”、可能性を削ってしまうような“内向きの安定志向への傾き”、SNSの普及により他者からの評価を求める“承認欲求高まり”、すぐに諦め、転職してしまうような“今日の頑張りが、いつか必ず報われると思えない”が挙げられていました。また、1990年代後半以降に生まれた世代を“Z世代”と呼び、その特徴として、生まれた時からSNSやスマホが普及しているデジタルネイティブであり、多様性や個性を尊重する価値観を持つ傾向にあることが挙げられていました。私たちが日々関わる若者である学生の社会的背景や、現代社会から受けている影響を改めて理解する機会となりました。

次に若者が抱える具体的な問題に注目し、“学生の退学・除籍”“ヤングケアラー”“ひきこもり”“自殺の増加”が挙げられていました。特に“自殺の増加”では、日本における10～39歳の死因順位の1位は自殺

であり、自殺で死亡した学生のうち、学内保健管理施設に関与していない割合が高く、8割を占めているという現状がありました。支援へのニーズはあるものの、実際に支援に繋がらないことが多く、支援を必要としている学生をどのように見つけるかが重要であるとのことで、“ゲートキーパー”の必要性について説明がありました。“ゲートキーパー”とは、悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞き、必要な支援につなげ、見守る「命の門番」です。学生が相談相手として選ぶのは友人や保護者が多いです。そのため、学生同士で“ゲートキーパー”として機能できるように、友人から「死にたい」「消えたい」などの話を聞いた時には、はぐらかしてしまうのではなく、まずは聞き、“ゲートキーパー”になった学生も1人で抱えるのではなく、適切な支援機関に繋ぐことを、学生全体に共有し、協力を仰ぐことが必要であるとお話がありました。

午後の部では午前の講義内容を踏まえ、『学生の援助要請と支援を喚起するためのピア・ゲートキーパー研修』というテーマで、ワークショップが行なわれ、カウンセラー・相談者・観察者の役割でロールプレイを実施しました。相談者役が「消えたい」「死にたい」といった内容を話す課題では、ロールプレイ終了後に、各グループと意見交換を行い、どのような聞き方や声掛けを意識しているかだけでなく、各大学・専修学校の学生相談室ではどのように対応するか、連携はどのように行なうのか等を共有しました。

研修会に参加し、支援対象である学生の抱えている問題や、社会から受けている影響も改めて理解することができました。また、支援を必要としているが支援に繋がることが出来ない学生を、どのように見つけ出すのかについて、学生支援業務を行なう職員だけでは限界があるため、学生同士が“ゲートキーパー”となり、支援につなぐ協力を求めることも必要であると実感しました。

学生相談室では、学生本人による相談だけではなく、ご本人の来室が難しい場合は、保護者の方やご友人が来室して頂くこともできます。お気軽にお越しください。

# 2024 年度 グループワーク報告

学生相談室 相談員 橋本 ちはる 船越 かほる 田中 ほのか

2024 年度に実施したグループワークの活動報告をします。

## グループワークの内容と参加人数

2024 年度のグループワークは「ハロークラブ」と「ほっこりカフェ」を実施しました。

「ハロークラブ」とは、毎月1回昼休みに、ものづくりを通じて参加者間の交流をはかる会です。2024 年度の参加者は延べ16名でした(5月3名、6月3名、7月3名、10月1名、12月2名、1月4名)。5月に「お花キーホルダー作り」、6月に「ワッペンネームタグ作り」、7月に「アロマスプレー作り」、10月に「アイロンビーズでハロウィンオーナメント作り」、12月に「クリスマスカード作り」、1月に「ワッペンネームタグ&トレカケース作り」を実施しました。

「ほっこりカフェ」とは、年に2回昼休みに、新入生・過年度・復学・編入学の学生を対象とし、茶話会を通じて参加者間の交流をはかる会です。2024 年度の参加者は延べ4名でした(4月2名、11月2名)。4月は1回生を対象に実施した。11月は社会人編入学生を対象に実施しました。

## 2025 年度 グループワークの開催スケジュール

2025 年度は、引き続き「ハロークラブ」を実施、その他に新しいグループワークが仲間入りします。1つ目が「オンライングループワーク」で、オンラインで集まり一緒にゲームを通して交流する会、2つ目が「リラックスタイム」で、自分の好きなアート体験を選び、ストレス解消や癒しになる時間を過ごしてもらうことを目的として企画しました。

今年度は既に、5月「韓国で話題！モールドール作り」、6月「韓国風！ワッペンネームタグ作り」を行ないました。特に5月の「モールドール作り」は大好評でしたので、7月に第2弾を実施しました！参加してくれた学生さんたちは、どの回も楽しそうに思い思いの作品を作っていて、初めて会う仲間とも和やかなとても良い雰囲気の中で過ごされていました♪

下記に2025 年度後半のグループワークのスケジュールを記載します。それぞれ、開催月ごとにお知らせを配信します。どのイベントにも気軽にご参加ください♪

※スケジュールや内容は変更される場合もありますので、ご了承ください。

### ハロークラブ

- 10月 毛糸でハロウィンポンポン作り
- 12月 クリスマス風フレームデコレーション
- 1月 香りで癒されようアロマスプレー作り

### オンライングループワーク

- 9月 オンラインで集まって、謎解きゲーム！
- 3月 未定

### リラックスタイム

- 11月 塗り絵、折り紙、貼り絵等のアート体験

### 前期の活動



モールドール作り



ワッペンネームタグ作り